

平成22年5月10日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520614

研究課題名（和文） 前近代中国における売官制度の基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental study on sales system of government post in early modern China

研究代表者 伍 躍（GO YAKU）

大阪経済法科大学・教養部・教授

研究者番号：60351681

研究成果の概要（和文）：

前近代中国には、「捐納」と呼ばれる売官制度があった。本研究は、この制度の起源と構成、およびその社会影響を検討するものである。世界でかつて存在していた各種の売官制度の一特例である捐納制度の制度設計、この制度を生み出した政治的、経済的、社会的な諸要因を研究したことによって、筆者は、前近代中国の売官制度の特徴が任官資格や国立学校の学生資格を売買するにあること、これまで「科举社会」と認識される明清中国社会において、広範な庶民性を持つ捐納が科举制度を蔭で支えたとともに、科举制度以上に人間の社会移動をも支えたことを学界ではじめて明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

The sale of government posts has existed in many places and many times in world history. In early modern China the practise was called “offering a donation” (*juan na*). My research explores the origins, development, and social impact of this system. Through analysis of the various political, economic, and social factors that grew out of the donation system, I demonstrate that the institution’s most salient feature during the early modern period in China was the sale of the qualification to serve in government and to study in a state academy rather than the purchase of an actual position in the government or academy as has been argued in the past. The donation system, with its broadly popular character, was critical to the maintenance of the civil service examination system, a system which to this point has been considered the defining feature of Chinese society during the Ming and Qing periods. I also show for the first time that even more than the civil service examinations, the donation system facilitated social mobility.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文社会系・人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：

①東洋史 ②中国史 ③官僚制度 ④捐納 ⑤売官 ⑥档案文書 ⑦科举制度

1. 研究開始当初の背景

前近代中国の捐納制度についての研究では、以下の問題を抱えていた。

(1) 当該制度が前近代中国で果たした役割の大きさ、影響の深さに対する認識が根本的に欠けていたからであると考えられる。従来、捐納制度史を研究した者のほとんどは、1949年の中華人民共和国の成立を中国歴史の一つの帰結点とし、金銭で官職を売買する捐納制度を旧政権の悪政として捉え、その枠組みや個別な事象を説明することにとどまり、制度が実際にどのように運用されていたのかを無視し、その社会に与えた影響について批判の態度をとるだけであった。もちろん、捐納制度が政治、社会に腐敗をもたらしたのは事実である。しかしそれらは、捐納が確固たる制度としては明清中国に約五百年もの間続いたし、さらに遡ってその原初的なものが始まった先秦の戦国時代から数えるのであれば、二千年以上の間厳然として存在せざるをえなかったこと、また実際そこには「合理性」があったこと、広範な人々がこれに加わったという点からすれば、「庶民性」も持ち合わせるものであったことを、まったく無視したものであった。つまり、捐納という制度が存続する社会的要因がほとんど無視されてしまったのである。

(2) 前近代中国の捐納制度の非道徳性が必要以上に強調された。問題は、捐納の非道徳性を認識しながら、しかもその実施を提案した明清中国官僚たちの思惑、官僚の提案を認めた皇帝本人の判断、そして捐納を通じて特権的身分などを獲得せんとする一般庶民の行動など、要するに一面では捐納という社会に腐敗をもたらす「悪」に対して、人々はどのようにして考え行動したのか、である。さらに問題は、彼らの思惑や行動を通じて、明清中国社会を我々がいかに認識するか、というところにある。これまでの研究のなかでこの点が完全に見落とされてしまった。

(3) 前近代中国の捐納制度自体が余りに複雑で、容易に理解しがたい部分があるため、学界には大きな認識ミスがあった。その中で一番大きなミスは、前近代中国の捐納制度のもとで官職、つまり官僚のポストが売買された、ということであった。

2. 研究の目的

本申請研究の目的は、前近代中国社会にお

ける捐納制度の基本構造、それを生み出した政治的・経済的・社会的・文化的な諸要因、およびそれが前近代中国社会に与えた影響は何であったのか、を明らかにすることである。

本申請研究において、具体的に明らかにすべき問題として、以下の諸点を挙げるができる。

1、官僚制度への捐納の影響は何であったのか。

2、前近代中国社会における社会移動 (social mobility) への捐納の影響は何であったのか。

3、前近代中国社会における行政への捐納の影響は何であったのか。

これらの作業を通して、前近代中国社会における捐納制度の位置づけを試みたい。売官制度を生み出した前近代中国社会の諸要因、および前近代中国社会への諸影響を明らかにしたい。

3. 研究の方法

(1) 本研究の視点は、二つある。

①まずは、官僚人事制度史の視点である。前近代中国の捐納制度は、明清中国、とりわけ清朝時代の中国で百年以上にわたって実施された国家の一制度であった。この制度がもつ特徴の一つは、それが官僚人事制度との密接な関係を保っていたことであった。当該制度の利用者が期待する目的、すなわち彼らが官僚に登用されること、昇進人事に加わることで、処分の取消を獲得するなどの期待を満足させることができなければ、この制度は長年にわたって継続できたはずはない。さらに、清朝時代の中期以後、夥しい捐納出身者の登用問題を如何にして解決するかは、皇帝と中央吏部がずっと悩み続けた問題であった。こうした人たちの登用を含む官僚人事制度の問題は、結局、清朝の国家支配の根本にかかわる重要な問題であった。

②社会史の視点である。明清中国においては、捐納制度は数百年にわたって存在した。「賤籍」を除けば、誰でも捐納をすることができた。この意味からすれば、捐納制度は広範な「庶民性」をもつ制度であったと言える。しかし、財力を基準に官僚に登用したり、官僚が受けた処分をこれまた財力で解除し

たりするこのような制度が、社会に不正や腐敗をもたらす危険性は、決して少ないものではなかった。捐納制度への批判は、その開始段階からずっと存在していた。筆者の関心は、近世の中国人が、どのようにこの制度を観察し、どのようにそれを利用して、社会における自分自身の地位の向上と維持をはかっていたのか、ということにある。つまり、その時代に生きる人々にとって捐納とは何であったかということを考え、彼らの目線で捐納という悪名高い制度を観察したい。そこから、批判を浴びていたにもかかわらず、清朝支配の最後まで維持される捐納制度の強靱さ、すなわちその社会的要因を探っていきたい。

(2) 本研究は、先行研究を踏襲して、歴史文献をもとに検討分析する、いわゆる実証研究である。本研究で利用した主な歴史文献は以下のものである。

①「政書」と呼ばれる前近代中国の国家制度の基本状況を記録するもの。たとえば、『大明会典』『大清会典』、および「捐例」「捐納事例」と呼ばれる捐納の基本規程集、などである。

②中国第一歴史档案馆（北京）および中央研究院歴史語言研究所（台北）が蔵する清代檔案である。

③中国明清時代の地方志、文集などである。

4. 研究成果

過去3年間にわたって研究して、以下の成果を得ることができた。

(1) 売官売位の制度は、世界史のなかでかなり普遍に見られる事象であった。明清中国の捐納制度とは、国家がその財政問題を解決するために、官立学校の学籍をはじめ、官僚となるための任官資格および上位ポストの昇進の資格などを、規定に従って民衆や官僚に販売する制度であった。金銭によって官位そのものを売買する制度ではなかった明清中国の捐納は、世界の売官売位制度の一特例であった。

(2) この制度は、官僚の腐敗をもたらしたものとして、古来、批判の対象であったにもかかわらず、明清中国において長く存在して作用し、社会に甚大な影響を与えた。筆者は官僚人事制度史と社会史という二つの側面から、檔案、政書などの史料を使って、その制度の基本構造とそれが持つ社会的機能を研究した。

(3) 明代から始まった国子監生の捐納問題を取り上げ、捐納によって科挙試験の受験資格を取得する制度の成立、および社会に与えた影響を明らかにした。

(4) 原始史料に基づいて庶民による国子監生や官僚登用資格を最初に購入する手順の復元、その際に不可欠とされる身分証明書

(「印結」)の発行に関連する印結局の問題、および印結局から見た官僚同士の人間関係を分析して、近代前夜における中国の官僚世界の内部変化を研究した。

(5) 捐納出身者の登用問題、官僚の昇進にかかわる捐納の利用問題、捐納による懲戒処分軽減解除などといった問題を通じて、捐納が持つ社会移動の道具としての機能を検討した。

(6) 1889年に水害の救済資金を調達するために実施された捐納の発案、組織などの実態を明らかにした。なお、その時の捐納者名簿を利用して、学界ではじめて捐納者の具体像を分析した。

(7) 山西商人による捐納の手続き代行、送金、および捐納資金の立て替えなどといった捐納制度の実施に関する諸問題から、国家政策の実施と商人の役割を検討した。

(8) 広範な庶民性を持つ捐納が科挙制度とは車の両輪のように明清中国の官僚登用および官僚人事の制度を支えていた一方、人間の社会移動 (social mobility) という観点から科挙制度以上に大きく作用した、と捐納の役割についての結論を述べた。

以上の研究成果をもとに、研究書『中国の捐納制度と社会』を取りまとめた。平成21年11月に、平成22年度日本学術振興会研究成果公開促進費を申請した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

①伍躍、關於明代捐納制度的幾点思考、第十一屆明史國際學術討論會論文集、査読有、2007、42-68

②伍躍、高山景行 厚德載物—學習『清代捐納制度』的一点体会、紀念許大齡教授誕辰八十五周年學術論文集、査読有、2007、544-569

③伍躍、外交的理念與外交的現實：以朱元璋對「不征國」朝鮮的政策為中心、儒家文明與中韓傳統關係、査読有、2008、130-148

④伍躍、普通の知識人による普通の旅—『公車紀程』、査読無、95、2008、71-99

⑤伍躍、明代的社會、納貢與例監—中國近世社會庶民勢力成長的一個側面、査読有、20、東吳歷史學報、2008、155-191

⑥伍躍、清代における捐復制度の成立について—考課制度との相互關係を中心に、査読有、67、東洋史研究、2009、70-97

⑦伍躍、官告民：雍正年間的一件維權案、査読有、中國史研究、2009、151-167

[学会発表] (計5件)

①伍躍、明代捐納政策開始時間再考、第十二屆明史國際學術討論會、2007年8月21日、

遼寧師範大学（中国・大連市）

②伍躍、外交的理念與外交的現實：以朱元璋對「不征國」朝鮮的政策為中心、儒家文明與中國傳統對外關係國際學術討論會、2007年9月18日、山東大学（中国・済南市）

③伍躍、明代的捐納：財政與社会、全球化下明史研究之新視野國際學術討論會、2007年10月30日、私立東吳大学（台湾・台北市）／国立暨南大学（台湾・南投県）

④伍躍、清代の捐納制度と官僚の懲戒処分制度—捐復とその周辺、2007年度東洋史研究会大会、2007年11月3日、京都大学（京都市）

⑤伍躍、朝鮮、日本から見た雍正帝の即位、中国社会史学会、2008年11月30日、中山大学（中国・珠海市）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伍 躍 (GO YAKU)

大阪経済法科大学・教養部・教授

研究者番号：60351681

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし